

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路管理課

事業名	交通安全施設等整備		路河川名等	(一)神ノ原青柳(停)線				
事業毎の通番	1	市町村名	諏訪郡原村	箇所名(ふりがな)	払沢(はらいざわ)			
事業概要	事業目的	当該箇所は原村小学校の通学路となっている。前後歩道が整備されているが、当該箇所は歩道の中抜けとなっている。交通量が多く、住宅が密集し、歩道が未整備であるため、通学児童や歩行者、通行車両双方の安全に支障をきたしている。地元関係者からの対策要望が高まっている。そこで、当事業は沿線利用者の安全確保のため歩道を設置するものである。						
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-4「生命・生活リスクの軽減」(交通安全対策の推進)	事業実施の根拠法令等	交通安全施設等整備事業に関する法律				
	関連する事業、計画等	通学路の安全確保に関する方針(長野県交通安全運動推進本部) 原村通学路安全プログラム						
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	原村小学校・原村中学校への通学児童ほか 現況自動車交通量:3394台/日(H27センサス)、現況歩行者交通量:267台・人/12h						
	着手年度	2022年度(R4)	事業期間	5年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)		
	完成年度(見込み)	2026年度(R8)	費用対効果	-	国庫	その他	県債	一般財源
	全体事業内容(主な工種)	歩道設置工 L=140m W=2.0m			200,000	104,762	95,000	238
	事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	歩道利用者の安全確保、特に通学児童の交通事故の減少が期待される 車両交通の円滑化が期待される					
		間接的効果(定量的・定性的)	通行車両の交通事故抑制					
	評価の視点	必要性	○現況自転車歩行者交通量：現況交通量 267台・人/12h ○目的地からの距離：原小学校から350m、原中学校から550m				評価	A
重要性		○通学路の安全確保に関する方針(長野県交通安全運動推進本部) ○通学路の指定：原小学校通学路点検箇所 ○関連計画、重点施策との整合：しあわせ信州創造プラン2.0 4-4、信州みちビジョン「施策I-(3)」				評価	A	
効率性		○事業期間：5年(R4~R8)				評価	A	
緊急性		○近年の交通事故件数：人or自転車×自動車事故発生 2件 ○現況の歩道幅員：歩道なし				評価	A	
計画熟度		○事業情報の共有：関係者・地権者等のほか、村HPにより関係者以外にも周知				評価	A	
		○地域の取り組み：協力的な取組がある(地区要望活動、学校PTA要望活動) ○地域の合意形成：事業目的について合意形成が図られている ○事後・再評価からのフィードバック：同種事業の結果を反映(事後評価 7-1:計画的な事業実施)						
所管課の意見	小学生の通学路であり、原村の通学路安全プログラムにも位置付けられているが、歩道が無く危険な状況であるため、早期に歩道整備を実施し、安全な歩行空間を確保する必要があるため、事業着手が妥当であると判断する。			採択状況	総合評価			
政策評価室の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。			○	A			
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手			

位置図

平面図

現況写真

標準横断面図

事業概要説明図表

① 事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	本路線は、原村と茅野市を結ぶ路線であり、交通量が非常に多い。当該箇所は原小学校及び原中学校の通学路であり、朝夕の歩行者が非常に多く、路肩幅が狭小であるため、早期対策が望まれている。
② 地域からの要望経緯及び地域の関わり	村、学校、PTA等による令和3年通学路合同点検で歩道設置による対策が挙げられた。地元区からも過去から歩道設置の要望がある。
③ 事業説明等の経緯	H26.8 歩道整備要望についての検討会 H29.10 通学路安全確保についての懇談会 R2.8 歩道設置事業説明会 R4.9 歩道幅員変更検討会
④ 他事業・プロジェクトとの整合、関連	しあわせ信州創造プラン2.0 4-4 信州みちビジョン「施策I-(3)」 原村通学路安全プログラム
⑤ 地球温暖化への配慮、自然環境・生活環境への影響と配慮	当該事業は、歩道の設置事業で、自然環境や景観に与える負荷は少なく、歩道を設置することにより歩行者の安全が確保され、地域の生活環境への好影響が期待できる。
⑥ 人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	歩道の整備により安全で安心な住環境が整備され、暮らしやすい良好なまちづくりが期待できる。
⑦ その他	特になし

事後・再評価からのフィードバック

子供の安全確保のため、早期の事業完了を図る。

事業代表地点の緯度経度

北緯:N 35° 58' 2.8"
東経:E 138° 13' 5.4"

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路管理課

事業名		交通安全施設等整備		路河川名等	(一)与地辰野線			
事業毎の通番		2	市町村名	上伊那郡箕輪町	箇所名(ふりがな)	下古田(しもふるた)		
事業概要	事業目的	本路線は国道153号の抜け道等になっており、朝夕等の通勤時間帯の交通量が非常に多い。 また、小学校への通学路になっているが、当区間は歩道が未整備で、通学する児童の安全が確保されておらず、令和3年6月の千葉県八街市の児童死傷事故を受けた緊急合同点検においても歩道設置の要望が挙がった。そこで、当事業で歩道を設置することにより、通学児童の安全と安心を確保する。						
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-4「生命・生活リスクの軽減」(交通安全対策の推進)		事業実施の根拠法令等	交通安全施設等整備事業に関する法律			
	関連する事業、計画等	箕輪都市計画区域マスタープラン、箕輪町通学路交通安全プログラム						
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	箕輪町立箕輪西小学校への通学生徒ほか 現況交通量:自動車 1,843台/日(H27センサス)、歩行者 45人/12h(令和3年度実測値)						
	着手年度	2022年度(R4)	事業期間	5年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)		
	完成年度(見込み)	2026年度(R8)	費用対効果	-	国庫	其他	県債	一般財源
	全体事業内容(主な工種)	歩道設置工 L=356m W=2.5m			150,000	78,571	71,000	429
	事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	歩道利用者の安全確保、特に通学児童や高齢者の交通事故の減少が期待される					
		間接的効果(定量的・定性的)	通行車両の交通事故抑制					
	評価の視点	必要性	○現況歩行者交通量 : 45人/12h(令和3年度実測値) ○目的地からの距離:箕輪西小学校から360m					評価
○通学路の安全確保に関する方針(長野県交通安全運動推進本部) ○通学路の指定:通学路安全プログラム(R3合同点検) 箕輪西小学校 ○関連計画、重点施策との整合:しあわせ信州創造プラン2.0 4-4、信州みちビジョン「施策I-(3)」					評価	A		
効率性		○事業期間 : 5年間(R4~R8)					評価	A
		緊急性	○近年の交通事故件数 : 人or自転車×自動車事故発生 3件 ○現況の歩道幅員:歩道なし					評価
計画熟度			○事業情報の共有:関係者・地権者等のほか、町HPにより関係者以外にも周知 ○地域の取り組み:積極的な取組がある(地区要望活動、学校PTA要望活動、期成同盟会要望活動) ○地域の合意形成:事業目的について合意形成が図られている ○事後・再評価からのフィードバック:同種事業の結果を反映(事後評価 7-1:計画的な事業実施)					評価
		所管課の意見	小学生の通学路であり、箕輪町の通学路安全プログラムにも位置付けられているが、歩道が無く危険な状況であるため、早期に歩道整備を実施し、安全な歩行空間を確保する必要があるため、事業着手が妥当であると判断する。			採択状況	○	総合評価
政策評価室の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。							
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手			

事業概要説明図表	位置図			
	現況写真			
	平面図			
	標準横断面			
	事業周辺環境	① 事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	本路線は国道153号の抜け道となっており、朝夕の通勤等に係る交通量が非常に多いが、歩道が未整備である。	
		② 地域からの要望経緯及び地域の関わり	本事業区間は、下古田区から小学校への通学路になっており、近くには保育園もあることから歩行者の保護が求められている。このため、恒常的な歩行者、自転車利用者の安全な通行空間の確保を要望されている。	
		③ 事業説明等の経緯	令和3年6月の千葉県八街市の児童死傷事故を受けた緊急合同点検箇所であり、箕輪町通学路安全推進協議会において歩道設置による対策が決定。	
		④ 他事業・プロジェクトとの整合、関連	箕輪都市計画区域マスタープラン 箕輪町通学路安全プログラム	
		⑤ 地球温暖化への配慮、自然環境・生活環境への影響と配慮	当該事業は、歩道の設置事業で、自然環境や景観に与える負荷は少なく、歩道を設置することにより歩行者の安全が確保され、地域の生活環境への好影響が期待できる。	
		⑥ 人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	歩道の整備により安全で安心な住環境が整備され、暮らしやすい良好なまちづくりが期待できる。	
⑦ その他		特になし		
事後・再評価からのフィードバック	子どもの安全確保のため、早期の事業完了を図る。	事業代表地点の緯度経度	北緯:N 35° 55' 4.62" 東経:E 137° 56' 31.01"	

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路管理課



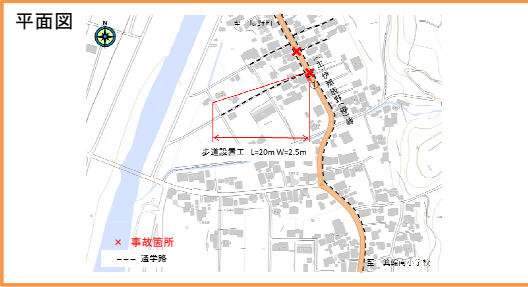
事業名	交通安全施設等整備		路河川名等	(一)与地辰野線	
事業毎の通番	3	市町村名	上伊那郡箕輪町	箇所名(ふりがな)	展望台北(てんぼうだいきた)
事業目的	本路線は国道153号の抜け道等になっており、朝夕等の通勤時間帯の交通量が非常に多い。 また、小学校への通学路になっているが、当区間は歩道が未整備で、通学する児童の安全が確保されておらず、令和3年6月の千葉県八街市の児童死傷事故を受けた緊急合同点検においても歩道設置の要望が挙がった。そこで、当事業で歩道を設置することにより、通学児童の安全と安心を確保する。				
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-4「生命・生活リスクの軽減」 (交通安全対策の推進)	事業実施の根拠法令等	交通安全施設等整備事業に関する法律		
関連する事業、計画等	箕輪都市計画区域マスタープラン、箕輪町通学路交通安全プログラム				
保全対象・範囲 受益対象・範囲	箕輪町立箕輪西小学校への通学生徒ほか 現況交通量：自動車 1,843台/日(H27センサス)、歩行者 41人/12h(令和3年度実測値)				
着手年度	2022年度(R4)	事業期間	5年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)
完成年度(見込み)	2026年度(R8)	費用対効果	-	国庫	其他 県債 一般財源
全体事業内容(主な工種)	歩道設置工 L=120m W=2.5m			80,000	41,905 38,000 95
事業効果	直接的効果 (定量的・定性的)	歩道利用者の安全確保、特に通学児童や高齢者の交通事故の減少が期待される			
	間接的効果 (定量的・定性的)	通行車両の交通事故抑制			
評価の視点	必要性	○現況自転車歩行者交通量：現況交通量 41台・人/12h ○目的地からの距離：箕輪西小学校から800m			評価 B
	重要性	○通学路の安全確保に関する方針(長野県交通安全運動推進本部) ○通学路の指定：箕輪西小学校通学路点検箇所 ○関連計画、重点施策との整合：しあわせ信州創造プラン2.0 4-4、信州みちビジョン「施策I-(3)」			評価 A
	効率性	○事業期間：5年間(R4~R8)			評価 A
	緊急性	○近年の交通事故件数：人or自転車×自動車事故発生 3件 ○現況の歩道幅員：歩道なし			評価 A
	計画熟度	○事業情報の共有：関係者・地権者等のほか、町HPにより関係者以外にも周知 ○地域の取り組み：積極的な取組がある(地区要望活動、学校PTA要望活動、期成同盟会要望活動) ○地域の合意形成：事業目的について合意形成が図られている ○事後・再評価からのフィードバック：同種事業の結果を反映(事後評価 7-1:計画的な事業実施)			評価 A
所管課の意見	小学生の通学路であり、箕輪町の通学路安全プログラムにも位置付けられているが、歩道が無く危険な状況であるため、早期に歩道整備を実施し、安全な歩行空間を確保する必要があるため、事業着手が妥当であると判断する。		採択状況	総合評価	
政策評価室の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。		○	A	
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手

事業概要説明図表	位置図			
	現況写真			
事業概要説明図表	平面図			
	標準横断面			
事業周辺環境	① 事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	本路線は国道153号の抜け道となっており、朝夕の通勤等に係る交通量が非常に多いが、歩道が未整備である。		
	② 地域からの要望経緯及び地域の関わり	本事業区間は、下古田区から小学校への通学路になっており、近くには保育園もあることから歩行者の保護が求められている。このため、恒常的な歩行者、自転車利用者の安全な通行空間の確保を要望されている。		
	③ 事業説明等の経緯	令和3年6月の千葉県八街市の児童死傷事故を受けた緊急合同点検箇所であり、箕輪町通学路安全推進協議会において歩道設置による対策が決定。		
	④ 他事業・プロジェクトとの整合、関連	箕輪都市計画区域マスタープラン 箕輪町通学路安全プログラム		
	⑤ 地球温暖化への配慮、自然環境・生活環境への影響と配慮	当該事業は、歩道の設置事業で、自然環境や景観に与える負荷は少なく、歩道を設置することにより歩行者の安全が確保され、地域の生活環境への好影響が期待できる。		
	⑥ 人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	歩道の整備により安全で安心な住環境が整備され、暮らしやすい良好なまちづくりが期待できる。		
	⑦ その他	特になし		
事後・再評価からのフィードバック	子どもの安全確保のため、早期の事業完了を図る。	事業代表地点の緯度経度	北緯:N 35° 55' 45" 74 東経:E 137° 56' 57" 13	

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路管理課

事業名	交通安全施設等整備		路河川名等	(主)伊那辰野(停)線				
事業毎の通番	4	市町村名	上伊那郡箕輪町	箇所名(ふりがな)	三日町(みっかまち)			
事業概要	事業目的	本路線は国道153号の代替路線及び諏訪地域へ向かう主要路線となっており、交通量が非常に多い。 また、小学校への通学路になっているが、当区間は歩道が未整備で、通学する児童の安全が確保されておらず、令和3年6月の千葉県八街市の児童死傷事故を受けた緊急合同点検においても歩道設置の要望が挙がった。そこで、当事業で歩道を設置することにより、通学児童の安全と安心を確保する。						
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-4「生命・生活リスクの軽減」(交通安全対策の推進)	事業実施の根拠法令等	交通安全施設等整備事業に関する法律				
	関連する事業、計画等	箕輪都市計画区域マスタープラン、箕輪町通学路交通安全プログラム						
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	箕輪町立箕輪南小学校への通学生徒ほか 現況交通量:自動車 1,843台/日(H27センサス)、歩行者 43人/12h(令和3年度実測値)						
	着手年度	2022年度(R4)	事業期間	3年間				
	完成年度(見込み)	2024年度(R6)	費用対効果	-	事業費(千円)			
	全体事業内容(主な工種)	歩道設置工 L=20m W=2.5m	事業費(千円)	財源内訳(千円)				
			30,000	国庫	15,714	其他	県債	14,000
	事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	歩道利用者の安全確保、特に通学児童や高齢者の交通事故の減少が期待される					
		間接的効果(定量的・定性的)	通行車両の交通事故抑制					
評価の視点	必要性	○現況自転車歩行者交通量：現況交通量 43台・人/12h ○目的地からの距離：箕輪南小学校から490m			評価	A		
	重要性	○通学路の安全確保に関する方針(長野県交通安全運動推進本部) ○通学路の指定：箕輪南小学校通学路点検箇所 ○関連計画、重点施策との整合：しあわせ信州創造プラン2.0 4-4、信州みちビジョン「施策I-(3)」			評価	A		
	効率性	○事業期間：5年間(R4~R8)			評価	A		
	緊急性	○近年の交通事故件数：人or自転車×自動車事故発生 2件 ○現況の歩道幅員：歩道なし			評価	A		
	計画熟度	○事業情報の共有：関係者・地権者等のほか、町HPにより関係者以外にも周知			評価	A		
		○地域の取り組み：協力的である(地区要望活動、学校PTA要望活動) ○地域の合意形成：事業目的について合意形成が図られている ○事後・再評価からのフィードバック：同種事業の結果を反映(事後評価 7-1:計画的な事業実施)						
所管課の意見	小学生の通学路であり、箕輪町の通学路安全プログラムにも位置付けられているが、歩道が無く危険な状況であるため、早期に歩道整備を実施し、安全な歩行空間を確保する必要があるため、事業着手が妥当であると判断する。			採択状況	総合評価	A		
政策評価室の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。			○				
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手			

事業概要説明図表	位置図		
	現況写真		
事業概要説明図表	平面図		
	標準横断面		
事業周辺環境	① 事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	当該路線(区間)は、箕輪南小学校の通学路となっているが、歩道が未整備のうえ、朝夕の通勤時間帯に係る交通量が非常に多い。	
	② 地域からの要望経緯及び地域の関わり	町、学校、PTA、交通管理者等による令和3年の通学路合同点検で、当該路線の西側の児童が東側へ渡って通学している事情をふまえ、横断歩道の設置要望とともに、横断歩道設置位置までの歩道整備が点検内容となった。	
	③ 事業説明等の経緯	令和3年6月の千葉県八街市の児童死傷事故を受けた緊急合同点検箇所であり、箕輪町通学路安全推進協議会において歩道設置による対策が決定し、整備概要を説明。	
	④ 他事業・プロジェクトとの整合、関連	箕輪都市計画区域マスタープラン 箕輪町通学路安全プログラム	
	⑤ 地球温暖化への配慮、自然環境・生活環境への影響と配慮	当事業は、歩道の設置事業で、自然環境や景観に与える負荷は少なく、歩道を設置することにより歩行者の安全が確保され、地域の生活環境への好影響が期待できる。	
	⑥ 人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	歩道の整備により安全で安心な住環境が整備され、暮らしやすい良好なまちづくりが期待できる。	
	⑦ その他	特になし	
事後・再評価からのフィードバック	子どもの安全確保のため、早期の事業完了を図る。	事業代表地点の緯度経度	北緯:N 35° 54' 07" 85 東経:E 137° 59' 49" 29

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路管理課

事業名	交通安全施設等整備		路河川名等	(国)406号	
事業毎の通番	5	市町村名	長野市	箇所名(ふりがな)	西長野(にしがの)
事業目的	当該箇所は、周辺に小学校、中学校、高校及び大学などの教育施設が集中して立地しており、通学路にも指定されていることから、児童や学生が多く通行する。しかしながら、交通量が多いにもかかわらず歩道が未整備で、危険な箇所となっている。本事業により歩道を整備して、歩行者の安全を確保したい。				
しあわせ信州創造プランにおける位置付け	4-4「生命・生活リスクの軽減」 (交通安全対策の推進)	事業実施の根拠法令等	交通安全施設等整備事業に関する法律		
関連する事業、計画等	通学路の安全確保に関する方針(長野県交通安全運動推進本部) 長野市通学路安全プログラム 長野市都市計画区域				
保全対象・範囲 受益対象・範囲	加茂小学校、西部中学校、長野商業高校、信州大学教育学部、長野県自治会館				
着手年度	令和4年	事業期間	6年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)
完成年度(見込み)	令和9年	費用対効果	—	国庫	その他 県債 一般財源
全体事業内容(主な工種)	歩道設置工 L=500m W=7.0m(両側)			500,000	261,905 238,000 95
事業効果	直接的効果 (定量的・定性的)	歩道利用者の安全確保、特に通学児童の交通事故の減少が期待される。			
	間接的効果 (定量的・定性的)	通行車両の交通事故抑制 渋滞解消 緊急輸送路の整備			
評価の視点	必要性	○現況自転車歩行者交通量:1,550(488+1,062)人/12h ○目的地からの距離:加茂小学校から0m、西部中学校から250m、長野商業高校から100m			評価 A
	重要性	○通学路の安全確保に関する方針(長野県交通安全運動推進本部) ○通学路の指定:通学路安全プログラム(R3合同点検) 加茂小学校 ○関連計画、重点施策との整合:しあわせ信州創造プラン2.0 4-4、信州みちビジョン「施策I-(3)」			評価 A
	効率性	○事業期間:6年間(R4~R9)			評価 B
	緊急性	○近年の交通事故件数:人or自転車×自動車事故発生 9件 ○現況の歩道幅員:歩道なし(構造を満たしていない)			評価 A
	計画熟度	○事業情報の共有:県の方針や市HPIにより関係者以外にも周知 ○地域の取り組み:協力的である(地区要望活動、学校PTA要望活動) ○地域の合意形成:事業目的について合意形成が図られている ○事後・再評価からのフィードバック:同種事業の結果を反映(事後評価 7-1:計画的な事業実施)			評価 A
		所管課の意見	小学生の通学路であり、長野市の通学路安全プログラムにも位置付けられているが、歩道が無く危険な状況であるため、早期に歩道整備を実施し、安全な歩行空間を確保する必要があるため、事業着手が妥当であると判断する。	採択状況	総合評価
政策評価室の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。			○	A
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手

事業概要説明図表	--- 通学路 × 事故箇所	
	位置図	
	計画横断面図	
	①	<p>現状W=1.0m前後の歩道があるが、構造上歩道として満たしていない。 また、専用物件等により局部的にW=0.5mほどしかない部分が連続する。</p>
事業周辺環境	②	
	③事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	当該箇所は、西長野区や新諏訪区から加茂小学校及び西部中学校へ通学する児童が通行する。また、長野商業高校や信州大学も立地していることから、自転車の通行も多い。一方、当路線は鬼無里や戸隠と長野市街を結ぶ幹線道路のため、交通量も多く、大型車の通行も多いため、歩行者が危険にさらされており、早期の対応が望まれる。
	④地域からの要望経緯及び地域の関わり	道路管理者、交通管理者、市、学校、PTA等による令和3年通学路合同点検で歩道設置による対策が挙げられた。地元区からも過去から歩道設置の強い要望がある。
	⑤事業説明等の経緯	R4.8月に地元説明を行い、当該計画区間の歩道設置について合意が得られた。
	⑥他事業・プロジェクトとの整合、関連	長野市都市計画マスタープラン 長野市通学路安全プログラム
	⑦地球温暖化への配慮 自然環境・生活環境への影響と配慮	当該事業は、歩道の設置事業で、自然環境や景観に与える負荷は少なく、歩道を設置することにより歩行者の安全が確保され、地域の生活環境への好影響が期待できる。
	⑧人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	歩道の整備により安全で安心な住環境が整備され、暮らしやすい良好なまちづくりが期待できる。
⑨その他	特になし	
事後・再評価からのフィードバック	子どもの安全確保のため、早期の事業完了を図る。	事業代表地点の緯度経度 北緯:N 36° 39' 26.09" 東経:E 138° 10' 29.79"

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路管理課

事業名	交通安全施設等整備		路河川名等	(一)北林飯島線		
事業毎の通番	6	市町村名	上伊那郡中川村	箇所名(ふりがな)	三共(さんきょう)	
事業概要	事業目的	本路線は、(国)153号と(主)伊那生田飯田線とを結ぶ道路であり、昨今の道路改築事業により狭隘区間が解消することで、交通量増加が見込まれる。また、リニア発生土の運搬ルートに位置づけられており、今後数年間は大型車両の通行が非常に多くなる。小中学校の通学路になっており、歩行者等の保護が求められている。 しかし、当区間は歩道が未整備で、令和3年6月の千葉県八街市の児童死傷事故を受けた緊急合同点検においても歩道設置の要望が挙がった。そこで、当事業で歩道を設置することにより安全で安心な都市環境の形成を図りたい。				
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-4「生命・生活リスクの軽減」(交通安全対策の推進)	事業実施の根拠法令等	交通安全施設等整備事業に関する法律		
	関連する事業、計画等	中川村通学路交通安全プログラム しあわせ信州創造プラン2.0 4-4 信州みちビジョン「施策 I-(3)」				
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	中川村立中川東小学校への通学生徒ほか 現況交通量：自動車 566台/日(H27センサス)、歩行者+自転車 20人/12h(令和3年度実測値)				
	着手年度	2022年度(R4)	事業期間	5年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)
	完成年度(見込み)	2026年度(R8)	費用対効果	-	国庫	その他 県債 一般財源
	全体事業内容(主な工種)	歩道設置工 L=550m W=2.5m		450,000	235,714	214,000 286
	事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	歩道利用者の安全確保、特に通学児童や高齢者の交通事故の減少が期待される			
		間接的効果(定量的・定性的)	通行車両の交通事故抑制			
	評価の視点	必要性	○現況自転車歩行者交通量：現況交通量 45台・人/12h ○目的地からの距離：中川東小学校から1400m			評価 B
重要性		○通学路の安全確保に関する方針(長野県交通安全運動推進本部) ○通学路の指定：中川東小学校通学路点検箇所 ○関連計画、重点施策との整合：しあわせ信州創造プラン2.0 4-4、信州みちビジョン「施策 I-(3)」			評価 A	
効率性		○事業期間：5年間(R4~R8)			評価 A	
緊急性		○近年の交通事故件数：人or自転車×自動車事故発生 3件 ○現況の歩道幅員：歩道なし			評価 A	
計画熟度		○事業情報の共有：関係者・地権者等のほか、村HPにより関係者以外にも周知 ○地域の取り組み：積極的な取組がある(地区要望活動、学校PTA要望活動、リニア対策協議会要望) ○地域の合意形成：事業目的について合意形成が図られている ○事後・再評価からのフィードバック：同種事業の結果を反映(事後評価 7-1:計画的な事業実施)			評価 A	
		所管課の意見	小学生の通学路であり、中川村の通学路安全プログラムにも位置づけられているが、歩道が無く危険な状況であるため、早期に歩道整備を実施し、安全な歩行空間を確保する必要があるため、事業着手が妥当であると判断する。	採択状況	総合評価 A	
政策評価室の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。			○		
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手	

事業概要説明図表	位置図			
	現況写真			
	平面図			
	標準横断面			
	事業周辺環境	① 事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	本路線は、(国)153号と(主)伊那生田飯田線とを結ぶ道路であり、昨今の道路改築事業により狭隘区間が解消することで、交通量増加が見込まれる。また、リニア発生土の運搬ルートに位置づけられており、今後数年間は大型車両の通行が非常に多くなる。	
		② 地域からの要望経緯及び地域の関わり	本事業区間は、小中学校の通学路になっており、恒常的な歩行者、自転車利用者の安全な通行空間の確保を要望されている。近年はリニア発生土の運搬に係る安全対策として住民からの要望が強まっている。	
		③ 事業説明等の経緯	令和3年6月の千葉県八街市の児童死傷事故を受けた緊急合同点検箇所であり、中川村通学路安全推進協議会において歩道設置による対策が決定。	
④ 他事業・プロジェクトとの整合、関連		天竜川流域治水プロジェクト、小和田地区基盤整備事業(リニア発生土利用)		
⑤ 地球温暖化への配慮、自然環境・生活環境への影響と配慮		当該事業は、歩道の設置事業で、自然環境や景観に与える負荷は少なく、歩道を設置することにより歩行者の安全が確保され、地域の生活環境への好影響が期待できる。		
⑥ 人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮		歩道の整備により安全で安心な住環境が整備され、暮らしやすい良好なまちづくりが期待できる。		
⑦ その他		特になし		
事後・再評価からのフィードバック	子供の安全確保のため、早期の事業完了を図る。	事業代表地点の緯度経度	北緯:N 35° 37' 27" 18 東経:E 137° 56' 14" 31	

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路管理課

事業名		交通安全施設等整備		路河川名等	(国)361号			
事業毎の通番		7	市町村名	上伊那郡南箕輪村	箇所名(ふりがな)	南原(みなみはら)		
事業概要	事業目的	本路線は、木曾地域と上伊那地域を結ぶ道路であり、交通量が非常に多い。特に権兵衛トンネルの開通により物流を担う大型車の交通量が増加している。また、付近の宅地開発が進み、小学校等もあることから、歩行者の保護が求められている。しかし、当区間は歩道が未整備で、令和3年6月の千葉県八街市の児童死傷事故を受けた緊急合同点検においても歩道設置の要望が挙がった。そこで、当事業で歩道を設置することにより安全で安心な都市環境の形成を図りたい。						
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-4「生命・生活リスクの軽減」(交通安全対策の推進)		事業実施の根拠法令等	交通安全施設等整備事業に関する法律			
	関連する事業、計画等	南箕輪村通学路交通安全プログラム しあわせ信州創造プラン2.0 4-4 信州みちビジョン「施策 I-(3)」						
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	南箕輪村立南部小学校への通学生徒ほか 現況交通量(H27センサス):自動車 5,256台/日、歩行者 15人/12h						
	着手年度	2022年度(R4)	事業期間	5年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)		
	完成年度(見込み)	2026年度(R8)	費用対効果	-	国庫	その他	県債	一般財源
	全体事業内容(主な工種)	歩道設置工 L=480m W=2.5m			100,000	52,381	47,000	619
	事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	歩道利用者の安全確保、特に通学児童や高齢者の交通事故の減少が期待される					
		間接的効果(定量的・定性的)	通行車両の交通事故抑制					
	評価の視点	必要性	○現況自転車歩行者交通量：現況交通量 41台・人/12h ○目的地からの距離：南原保育園400m、南部小学校800m、					評価
重要性		○通学路の安全確保に関する方針(長野県交通安全運動推進本部) ○通学路の指定：通学路安全プログラム(R3合同点検) 南部小学校 ○関連計画、重点施策との整合：しあわせ信州創造プラン2.0 4-4、信州みちビジョン「施策 I-(3)」					評価	A
効率性		○事業期間：5年(R4～R8)					評価	A
緊急性		○近年の交通事故件数：人or自転車×自動車事故発生 3件(H29年2件、H30年1件) ○現況の歩道幅員：歩道なし					評価	A
計画熟度		○事業情報の共有：県の方針や市HPIにより関係者以外にも周知 ○地域の取り組み：積極的な取組がある(期成同盟会要望、地区要望活動、学校PTA要望活動) ○地域の合意形成：合意形成が図られている(沿線地権者了解済み、整備方法合意済み) ○事後・再評価からのフィードバック：同種事業の結果を反映(事後評価 7-1:計画的な事業実施)					評価	A
		所管課の意見	小学生の通学路であり、南箕輪村の通学路安全プログラムにも位置付けられているが、歩道が無く危険な状況であるため、早期に歩道整備を実施し、安全な歩行空間を確保する必要があるため、事業着手が妥当であると判断する。			採択状況	○	総合評価
政策評価室の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。					○	A	
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手			

事業概要説明図表	位置図			
	現況写真			
	平面図			
	標準横断面			
	事業周辺環境	① 事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	本路線は、木曾地域と上伊那地域を結ぶ道路であり、交通量が非常に多い。本事業区間は木曾方面から伊那市の中心市街地へ向かう主要幹線道路であり、第一次の緊急輸送路に位置付けられている。	
		② 地域からの要望経緯及び地域の関わり	本事業区間は、権兵衛トンネルの開通により交通量が増加している。また、付近の宅地開発が進み、小学校等もあることから、歩行者の保護が求められている。このため、恒常的な歩行者、自転車利用者の安全な通行空間の確保を要望されている。	
		③ 事業説明等の経緯	令和3年6月の千葉県八街市の児童死傷事故を受けた緊急合同点検箇所であり、南箕輪村通学路安全推進協議会において歩道設置による対策が決定。	
		④ 他事業・プロジェクトとの整合、関連	しあわせ信州創造プラン2.0 4-4 信州みちビジョン「施策 I-(3)」	
		⑤ 地球温暖化への配慮、自然環境・生活環境への影響と配慮	当該事業は、歩道の設置事業で、自然環境や景観に与える負荷は少なく、歩道を設置することにより歩行者の安全が確保され、地域の生活環境への好影響が期待できる。	
		⑥ 人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	歩道の整備により安全で安心な住環境が整備され、暮らしやすい良好なまちづくりが期待できる。	
⑦ その他		特になし		
事後・再評価からのフィードバック	子供の安全確保のため、早期の事業完了を図る。	事業代表地点の緯度経度	北緯:N 137° 56' 09" 64 東経:E 35° 51' 12" 88	

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路管理課

事業名	交通安全施設等整備		路河川名等	(国)403号	
事業毎の通番	8	市町村名	麻績村	箇所名(ふりがな)	和合～下井堀(わごう～しもいぼり)
事業目的	当路線は新潟県新潟市と長野県松本市を結ぶ幹線道路であり、第一次緊急輸送道路に指定されている。しかし、当区間は歩道が未整備で、車両・歩行者双方の安全に支障をきたしている。近隣には、麻績小学校があり通学路にも指定されていることから、R3通学路合同点検の対策内容が歩道設置となっている。当事業により歩道整備することで、通学をはじめとする歩行者の安全な通行空間を確保する。				
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-4「生命・生活リスクの軽減」(交通安全対策の推進)	事業実施の根拠法令等	交通安全施設等整備事業に関する法律		
関連する事業、計画等	麻績村通学路交通安全プログラム、しあわせ信州創造プラン2.0 4-4、信州みちビジョン「施策I-(3)」				
保全対象・範囲 受益対象・範囲	麻績小学校、筑北中学校、おみ保育園、他 現況自動車交通量:4,679台/日(H27センサス)、現況自転車歩行者交通量:41台・人/12h				
着手年度	2022年度(R4)	事業期間	8年間	事業費(千円) 財源内訳(千円)	
完成年度(見込み)	2029年度(R11)	費用対効果	-	国庫	その他 県債 一般財源
全体事業内容(主な工種)	歩道設置工 L=2600m W=2.5m			500,000	261,905 238,000 95
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	歩道利用者の安全確保、特に通学児童や高齢者の交通事故の減少が期待される			
	間接的効果(定量的・定性的)	緊急輸送路、バス路線の整備 通行車両の交通事故抑制			
評価の視点	必要性	○現況歩行者交通量:41人/12h(令和3年度実測値) ○目的地からの距離:麻績小学校から900m			評価 B
	重要性	○通学路の安全確保に関する方針(長野県交通安全運動推進本部) ○通学路の指定:通学路安全プログラム(R3合同点検) 麻績西小学校 ○関連計画、重点施策との整合:しあわせ信州創造プラン2.0 4-4、信州みちビジョン「施策I-(3)」			評価 A
	効率性	○事業期間:8年間(R4～R11)			評価 B
	緊急性	○近年の交通事故件数:人or自転車×自動車事故発生3件 ○現況の歩道幅員:歩道なし			評価 A
	計画熟度	○事業情報の共有:関係者・地権者等のほか、町HPにより関係者以外にも周知 ○地域の取り組み:積極的な取組がある(地区要望活動、学校PTA要望活動、期成同盟会要望活動) ○地域の合意形成:事業目的について合意形成が図られている ○事後・再評価からのフィードバック:同種事業の結果を反映(事後評価 7-1:計画的な事業実施)			評価 A
所管課の意見	小学生の通学路であり、麻績村の通学路安全プログラムにも位置付けられているが、歩道が無く危険な状況であるため、早期に歩道整備を実施し、安全な歩行空間を確保する必要があるため、事業着手が妥当であると判断する。		採択状況	総合評価	
政策評価室の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。		○	A	
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手

位置図

標準横断面

現状写真

平面図

事業概要説明図表

① 事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景
当区間は周辺に麻績小学校、筑北中学校、おみ保育園があり、児童・生徒の通学路となっているが、国道18号と国道19号を結ぶ重要な区間でもあり、令和3年7月に長野市篠ノ井小松原で発生した地すべりにより国道19号が通行止めとなった際は、迂回路として多くの大型車が通行し、歩行者、自転車が危険に晒された。今までも歩道設置の要望があったが、PTAや地元から通学路点検等を通じ速やかな対策実施の声が高まっている。

② 地域からの要望経緯及び地域の関わり
付近に小、中学校、保育園があることから、歩行者の保護が求められている。このため、歩行者、自転車利用者の安全な歩行空間の確保を要望されている。

③ 事業説明等の経緯
令和3年10月の通学路合同点検で当区間の対策内容を歩道設置とすることで関係者と合意。

④ 他事業・プロジェクトとの整合、関連
麻績村通学路交通安全プログラム

⑤ 地球温暖化への配慮、自然環境・生活環境への影響と配慮
当該事業は、歩道の設置事業で、自然環境や景観に与える負荷は少なく、歩道を設置することにより歩行者の安全が確保され、地域の生活環境への好影響が期待できる。

⑥ 人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮
歩道の整備により安全で安心な住環境が整備され、暮らしやすい良好なまちづくりが期待できる。

⑦ その他
特になし

事業周辺環境

事後・再評価からのフィードバック
子供の安全確保のため、早期の事業完了を図る。

事業代表地点の緯度経度
北緯:N 36° 26' 42.4716"
東経:E 138° 1' 42.1026"

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路管理課

事業名		交通安全施設等整備		路河川名等		(主)上越飯山線		
事業毎の通番		9	市町村名	飯山市	箇所名(ふりがな)			戸狩新田~大塚(とがりしんでん~おおつか)
事業概要	事業目的	当路線は、飯山市から新潟県上越市を結ぶ幹線道路であるとともに、地域住民にとっての生活道路としての役割も果たしている。また、沿線の戸狩スキー場や戸狩温泉、なべくら高原等の利用者の通行も多い。沿線には城北中学校や戸狩小学校があり、令和7年度には小学校の統廃合による新小学校の開校が予定されているが、当該区間は歩道の整備が十分ではなく、歩行者は危険な状態であることから、通学路の合同点検においても対策箇所となっている。そのため、歩道整備を行って歩行者の安全を確保したい。						
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-4「生命・生活リスクの軽減」		事業実施の根拠法令等	交通安全施設等整備事業に関する法律			
	関連する事業、計画等	飯山市過疎地域自立促進計画、飯山市通学路安全プログラム要対策箇所、信州みちビジョン「施策I-(3)」						
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	戸狩小学校、城北中学校 通学者、JR戸狩野沢温泉駅 通勤者他 地元住民 現況自動車交通量:2,915台/日(H27センサス)、現況自転車歩行者交通量:87人/12h(H27センサス)						
	着手年度	2022年度(令和4年度)	事業期間	5年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)		
	完成年度(見込み)	2026年度(令和8年度)	費用対効果	—	国庫	その他	県債	一般財源
	全体事業内容(主な工種)	歩道設置工(片側) L=650m W=2.5m			400,000	209,524	—	190,000 476
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	歩道利用者の安全確保、特に通学児童や高齢者の交通事故の減少が期待される						
	間接的効果(定量的・定性的)	通行車両の交通事故抑制						
評価の視点	必要性	○現況自転車歩行者交通量：現況交通量 81台・人/12h ○目的地からの距離：城北小学校から900m					評価	B
	重要性	○通学路の安全確保に関する方針(長野県交通安全運動推進本部) ○通学路の指定：城北小学校通学路点検箇所 ○関連計画、重点施策との整合：しあわせ信州創造プラン2.0 4-4、信州みちビジョン「施策I-(3)」					評価	A
	効率性	○事業期間：5年間(R4~R8)					評価	A
	緊急性	○近年の交通事故件数：人or自転車×自動車事故発生 2件 ○現況の歩道幅員：歩道なし					評価	B
	計画熟度	○事業情報の共有：関係者・地権者等のほか、市HPIより関係者以外にも周知 ○地域の取り組み：協力的である(地区要望活動、学校PTA要望活動) ○地域の合意形成：事業目的について合意形成が図られている(事業目的及び整備方法合意済み) ○事後・再評価からのフィードバック：同種事業の結果を反映(事後評価 7-1：計画的な事業実施)					評価	A
所管課の意見	小学生の通学路であり、飯山市の通学路安全プログラムにも位置付けられているが、歩道が狭小で危険な状況であるため、早期に歩道整備を実施し、安全な歩行空間を確保する必要があるため、事業着手が妥当であると判断する。				採択状況	総合評価		
政策評価室の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。				○	A		
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—		評価の決定	事業着手		

位置図

状況写真

平面図

事業概要説明図表	①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	当箇所は、戸狩小学校、城北中学校の通学路であり、JR戸狩野沢温泉駅への歩行者も多いが、歩道がなく危険な状況。令和7年度には、城北中学校の隣接地で小学校の統廃合による新小学校の開校が予定されており、通学路の再編が予定されている。
	②地域からの要望経緯及び地域の関わり	主要地方道上越飯山線改修期成同盟会から所長要望が出されている(H29.7.12、H30.7.13、R1.7.11、R2.8.7、R3.7.16)。常盤地区から毎年所長要望がある(H29.8.4、H30.7.9、R1.7.18、R2.7.21、R3.7.21)。R3通学路緊急合同点検の点検箇所該当。
	③事業説明等の経緯	主要地方道上越飯山線改修期成同盟会から所長要望が出されている(H29.7.12、H30.7.13、R1.7.11、R2.8.7、R3.7.16)。常盤地区から毎年所長要望がある(H29.8.4、H30.7.9、R1.7.18、R2.7.21、R3.7.21)。
	④他事業・プロジェクトとの整合、関連	飯山市過疎地域自立促進計画 飯山市通学路安全プログラム
	⑤地球温暖化への配慮、自然環境・生活環境への影響と配慮	当該事業は、歩道の設置事業で、自然環境や景観に与える負荷は少なく、歩道を設置することにより歩行者の安全が確保され、地域の生活環境への好影響が期待できる。
	⑥人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	歩道の整備により安全で安心な住環境が整備され、暮らしやすい良好なまちづくりが期待できる。
	⑦その他	特になし

事後・再評価からのフィードバック

計画区間のうち、歩行者の安全確保が特に求められている区間から段階的に整備を実施

事業代表地点の緯度経度

北緯:N 36° 54' 18"
東経:E 138° 23' 11"

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路管理課

事業名		交通安全施設等整備		路河川名等	(一)有明大町線			
事業毎の通番		10	市町村名	北安曇郡松川村	箇所名(ふりがな)	川西南(かわにしみなみ)		
事業概要	事業目的	本路線は安曇野市と大町市を結ぶ路線であり、沿線には国営アルプスあづみの公園や安曇野ちひろ公園等の観光施設が位置しており、観光ルートともなっている。 しかし、当区間は歩道が未整備で、カーブ区間では見通しが悪いため、車両・歩行者双方の安全に支障をきたしている。近隣には小学校があるため通学路になっており、危険な状態である。また、令和3年度に実施した通学路緊急合同点検では歩道設置要望が出ている。そこで、当事業で歩道を設置することにより安全で安心な都市環境の形成を図りたい。						
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-4「生命・生活リスクの軽減」(交通安全対策の推進)		事業実施の根拠法令等	交通安全施設等整備事業に関する法律			
	関連する事業、計画等	R3通学路緊急合同点検箇所 松川村通学路交通安全プログラム						
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	松川村立松川小学校への通学生徒ほか 現況交通量:自動車4,228台/日、歩行者+自転車:21人・台/12h (H27センサス)						
	着手年度	2022年度(R4)	事業期間	5年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)		
	完成年度(見込み)	2026年度(R8)	費用対効果	-	国庫	その他	県債	一般財源
	全体事業内容(主な工種)	歩道設置工 L=450m W=2.5m 道路改良工 L=150m			200,000	104,762	95,000	238
	事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	歩道利用者の安全確保、特に通学児童や高齢者の交通事故の減少が期待される 車両交通の円滑化が期待される					
		間接的効果(定量的・定性的)	通行車両の交通事故抑制					
	評価の視点	必要性	○現況自転車歩行者交通量: 現況交通量 21台・人/12h ○目的地からの距離: 松川村スポーツプラザ(避難施設)450m、松川小学校から2000m					評価
					評価	A		
重要性		○通学路の安全確保に関する方針(長野県交通安全運動推進本部) ○通学路の指定: 松川小学校通学路点検箇所 ○関連計画、重点施策との整合: しあわせ信州創造プラン2.0 4-4、信州みちビジョン「施策I-(3)」					評価	A
		○事業期間: 5年間(R4~R8)					評価	A
緊急性		○近年の交通事故件数: 人or自転車×自動車事故発生 3件 ○現況の歩道幅員: 歩道なし					評価	A
		○事業情報の共有: 関係者・地権者等のほか、町HPにより関係者以外にも周知 ○地域の取り組み: 積極的な取組がある(地区要望活動、学校PTA要望活動、期成同盟会要望活動) ○地域の合意形成: 事業目的について合意形成が図られている(事業目的及び整備方法合意済み) ○事後・再評価からのフィードバック: 同種事業の結果を反映(事後評価 7-1: 計画的な事業実施)					評価	A
所管課の意見	小学生の通学路であり、松川村の通学路安全プログラムにも位置付けられているが、歩道が無く危険な状況であるため、早期に歩道整備を実施し、安全な歩行空間を確保する必要があるため、事業着手が妥当であると判断する。				採択状況	総合評価	A	
政策評価室の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。				○			
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手			

事業概要説明図表	位置図		
	現況写真		
事業概要説明図表	平面図		
	標準横断面		
事業周辺環境	① 事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	本路線は、松川小学校の通学路となっているが、歩道が未整備で、カーブ区間では見通しが悪い状況である。R3通学路緊急合同点検で危険箇所として位置付けられ、歩道設置の機運が高まった。	
	② 地域からの要望経緯及び地域の関わり	本事業区間は、松川小学校の通学路になっており、R3通学路緊急合同点検で危険箇所に位置付けられている。	
	③ 事業説明等の経緯	R3.11松川村へ事業説明	
	④ 他事業・プロジェクトとの整合、関連	松川村通学路交通安全プログラム	
	⑤ 地球温暖化への配慮、自然環境・生活環境への影響と配慮	当該事業は、歩道の設置事業で、自然環境や景観に与える負荷は少なく、歩道を設置することにより歩行者の安全が確保され、地域の生活環境への好影響が期待できる。	
	⑥ 人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	歩道の整備により安全で安心な住環境が整備され、暮らしやすい良好なまちづくりが期待できる。	
	⑦ その他	特になし	
事後・再評価からのフィードバック	子供の安全確保のため、早期の事業完了を図る。	事業代表地点の緯度経度	北緯: N 東経: E